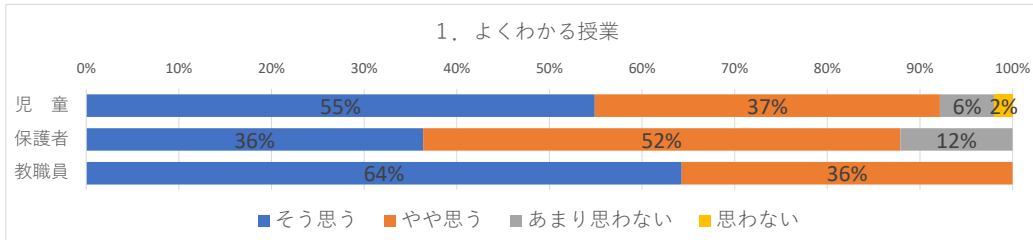


令和6年度 学校評価集計（三者比較）

自主

質問1

児童 学校の勉強（授業）は、よくわかる。
 保護者 子どもは、基本的な学習内容を理解し、学年の学力を身に付けている。
 教職員 よくわかる楽しい授業をめざし、指導方法などの工夫・改善に努めている。

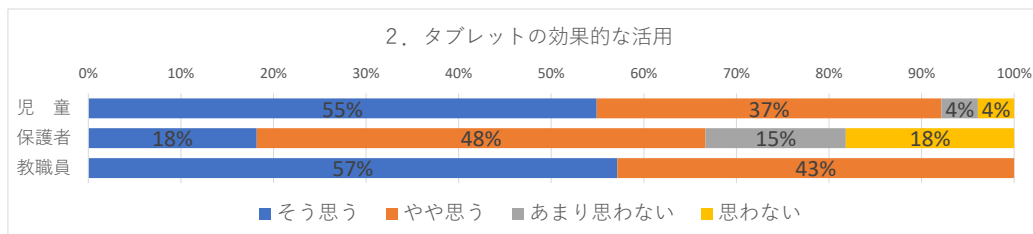


【改善策】「よくわかる楽しい授業」の成果としての児童の変容を、具体的に（目に見える形で）保護者に届ける方法や機会を工夫していく。

自主

質問2

児童 タブレットなどICT機器を使うと、授業がわかりやすくなる。
 保護者 子どもは、持ち帰ったタブレットを家庭学習（宿題、自主勉強）に活用している。
 教職員 GIGAスクール構想の推進は、指導環境の向上につながっている。

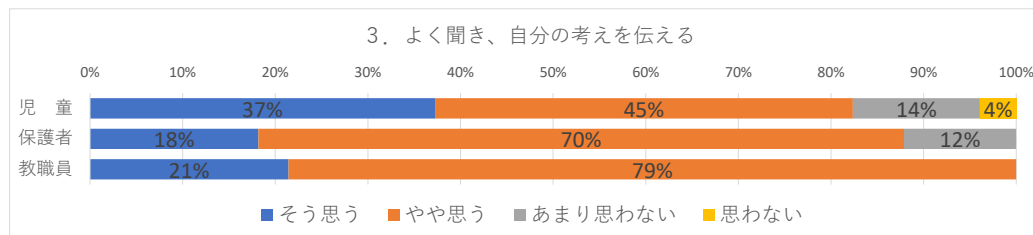


【改善策】タブレットの効果的な活用について、まず教職員で意図や方法を共有し、効果を実証していく。学習観の転換も、授業を通して啓発していく。

自主

質問3

児童 先生や友達の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと友達や先生に伝えている。
 保護者 子どもは、家族の話をよく聞き、自分の考えを言うことができる。
 教職員 他者と意見を交換し、賛同や相違を共することで学びを深める授業を実践している。

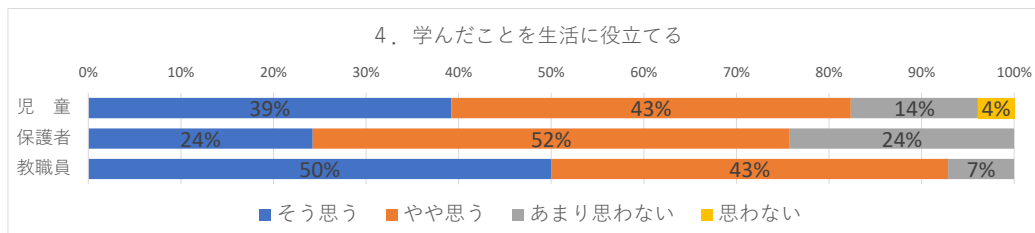


【改善策】互いを尊重する学級集団づくりを土台とし、授業に自分と級友の考え方や意見を比較したり、話し合いを取り入れたりしていく。

自主

質問4

児童 授業で学んだことを、生活で役立てようとしている。
 保護者 子どもは、学校で学習したことを生活に役立てている。
 教職員 学習したことを生活に役立てられる、社会に開かれた教育活動を実践している。

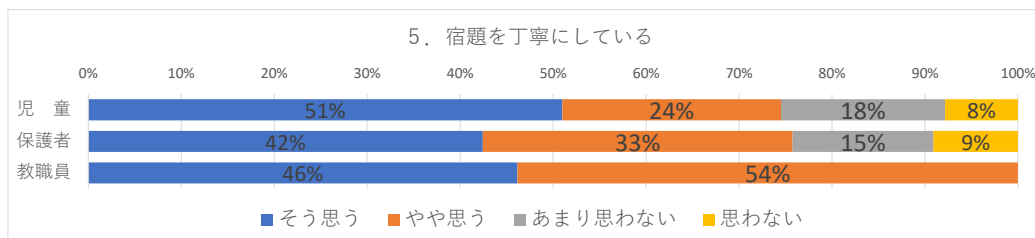


【改善策】学習したことを社会の事象と結びつける手立てを考え、授業に活かす。具体的には、学習が生活に役立つ体験的な活動をデザインしていく。

自主

質問5

児童 宿題に、毎日ていねいに取り組んでいる。
 保護者 家庭では、毎日、宿題への取組に声かけをしている。
 教職員 授業の復習・予習となる、適切な宿題を出すと共に評価している。

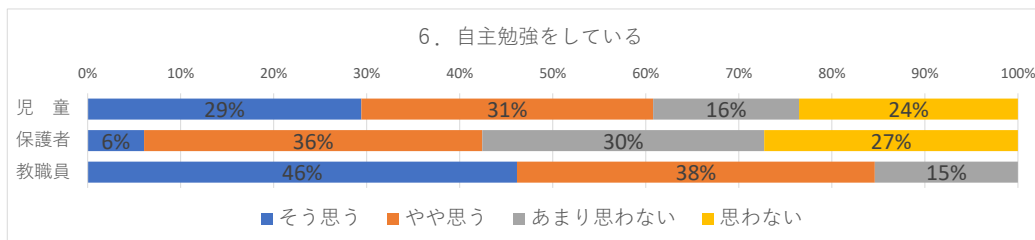


【改善策】活用力を育む復習が反転学習につながる予習、また新聞記事の要約等、宿題をバリエーション豊かなものにしていく。

自主

質問6

児童 宿題以外に、家庭で自主勉強をしている。
 保護者 「家庭学習の手引き」や「自主勉強の手引き」を活用して、自主勉強に取り組むよう励ましている。
 教職員 「家庭学習の手引き」や「自主勉強の手引き」の活用など、家庭学習への取り組みを指導している。

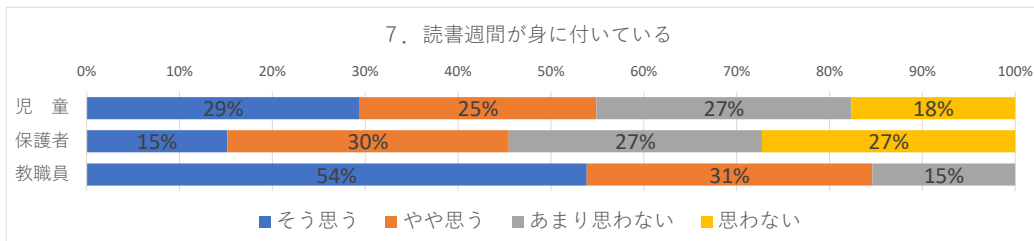


【改善策】自主勉強の楽しさを味わう経験を大切にする。そして、教科の枠にしばられない、本来の興味関心を引き出し、学ぶ意欲を育てていくものにする。啓発を継続する。

自主

質問7

児童 毎日、本や新聞を読んでいる。
 保護者 家庭で、読書への声かけや環境作りを行っている。
 教職員 児童が本を読むように、図書の貸し出しや読み聞かせ等に取り組んでいる。

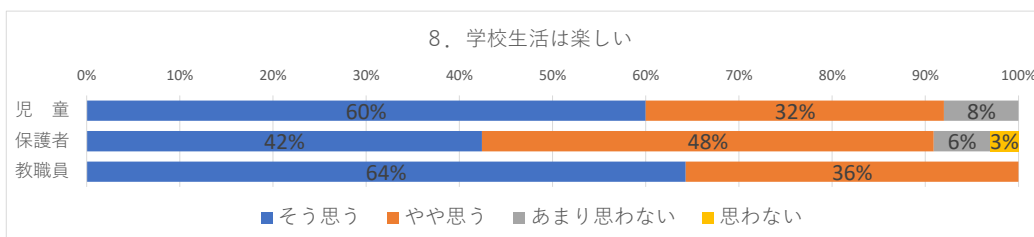


【改善策】本を手にする機会や読んだ図書の内容を紹介し合う機会（コーナー）をつくる。

創造

質問8

児童 福井小学校の学校生活は、楽しい。
 保護者 子どもは、毎日、学校に行くのを楽しみにしている。
 教職員 楽しい学校・学級づくりをめざし、日々の教育活動を工夫している。

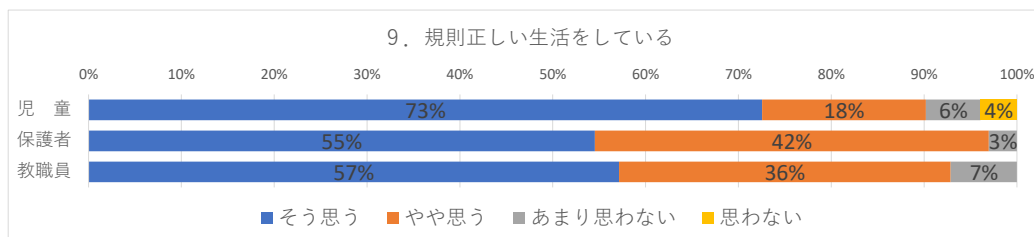


【改善策】教職員自らが学校の「楽しさ」について思いを深め、共有し、力を出し合って追求していく。

創造

質問9

児童 毎日、早寝早起きし、朝ご飯を食べて登校している。
 保護者 家庭では、早寝早起きさせ、朝食を食べて登校させている。
 教職員 規則正しい生活や朝食の大切さについて指導している。

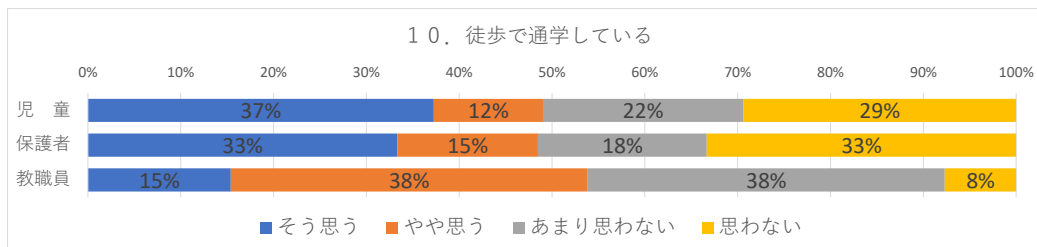


【改善策】保健だよりやメディアチャレンジカードの配布時に合わせて指導するなど、定期的な指導を継続していく。

創造

質問10

児童 できるだけ、歩いて通学している。
保護者 家庭で安全について話し合い、可能な範囲での徒歩通学をさせている。
教職員 家庭の意志を尊重しつつ、徒歩通学の意義と実践を呼びかけている。

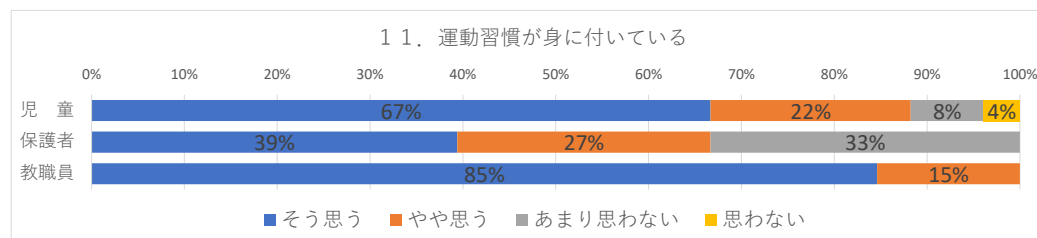


【改善策】家庭の考えを尊重しつつ、自分の足で通学することの意義や体力向上の重要性を啓発し、歩く機会の確保を推進する。

創造

質問11

児童 休み時間は外で遊んだり、サーキットや体育の授業で運動するのが楽しい。
保護者 子どもは、外遊びや体力づくりなど、運動習慣が身に付いている。
教職員 体育の授業を中心に、運動に親しむ機会を設け、児童の体力向上に努めている。

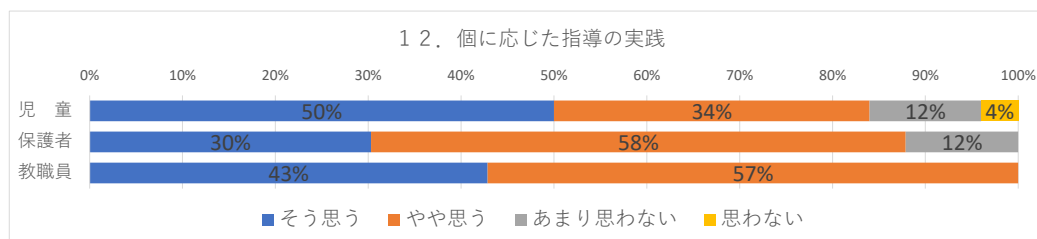


【改善策】教職員の高い意識を維持しながら、さらに指導に工夫を加えていくことで児童の体力向上とが、一層期待できる。

創造

質問12

児童 学習や運動・行事などでは、自分が活躍することがあった。
保護者 子どもは、学習や運動・行事などで自信を高めている。
教職員 児童の適性や能力の正しい把握に努め、個に応じた指導を工夫している。

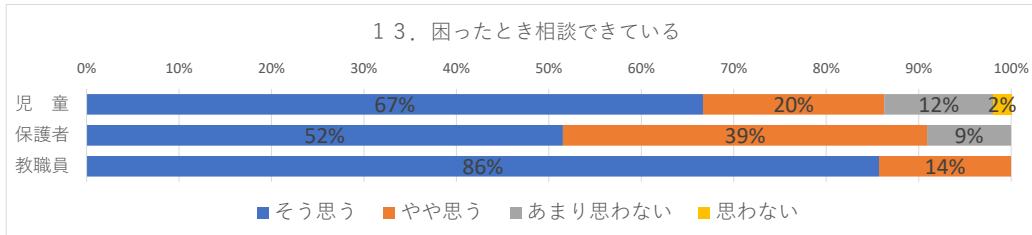


【改善策】児童理解の方法や機会をより客観的で具体的なものとしていくことで、定期的な情報収集・交換となり、個に応じた指導につなげていく。

創造

質問 1 3

児童 何でも相談できる先生や友達がいる。
 保護者 家庭では、学校生活（学習や交友関係など）について話題にしている。
 教職員 児童の言葉に耳を傾け、公平に接している。

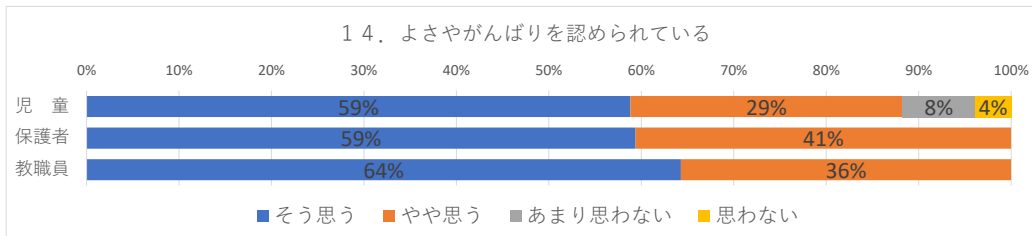


【改善策】 その個の成長課題から目をそらすことなく、誠実な教育実践に一層努める。それを通して、日々、児童との信頼関係を構築していく。

創造

質問 1 4

児童 先生は、よいところやがんばりをほめてくれる。
 保護者 家庭では、子どものよさやがんばりを賞賛している。
 教職員 PBSの視点から、一人ひとりのよさやがんばりを認め、丁寧に伝えている。

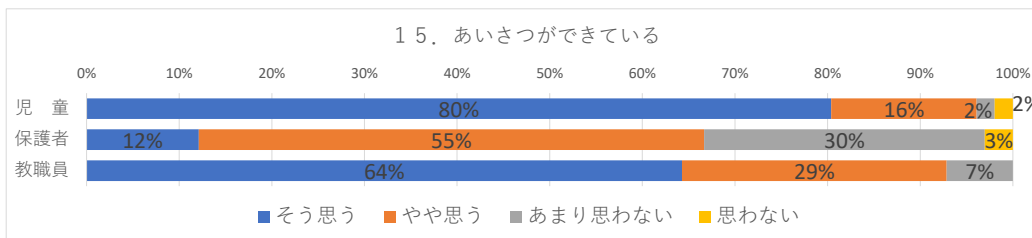


【改善策】 児童のよさやがんばりに目を向け、共に成長していこうという姿勢で学級経営していくことで、教職員が自信を一層向上させていく。

感謝

質問 1 5

児童 家族、友達、先生、地域の人に「あいさつ・返事・ありがとう」が言えている。
 保護者 子どもは、気持ちのいい挨拶をし、場に応じた言葉づかいをしている。
 教職員 挨拶・言葉遣い等について、自ら範を示すと共に、機会を逃さず指導している。

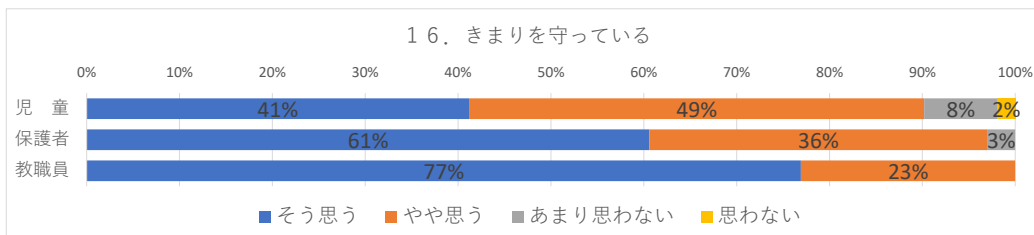


【改善策】 児童の「そう思う80%」を認め、あたたかい言葉がけや雰囲気づくりを向上させていく。何より教職員の後ろ姿が手本となるように勤務する。

感謝

質問 1 6

児童 自分は、学校や学級のきまりを守っている。
 保護者 家庭では、社会のルール・マナーを守ることが大切になっている。
 教職員 年間計画に基づいて、道徳教育の要として道徳科の授業を実践している。

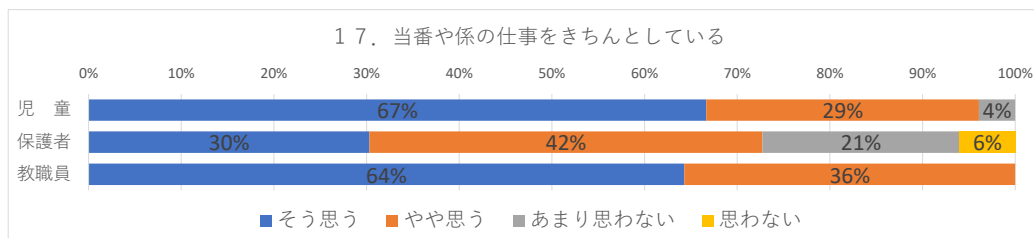


【改善策】道徳科の授業を、児童が生活で実践しようとする、また実践を振り返るものとし、実践を積み重ねていく。

感謝

質問 1 7

児童 学級の当番や係の仕事、そうじをきちんとしている。
 保護者 家庭では、いずれか家事（仕事）を任せ、働く意欲の素地を育てている。
 教職員 集団の一人として、集団生活をよりよくしようとする意欲と実践力を育てている。

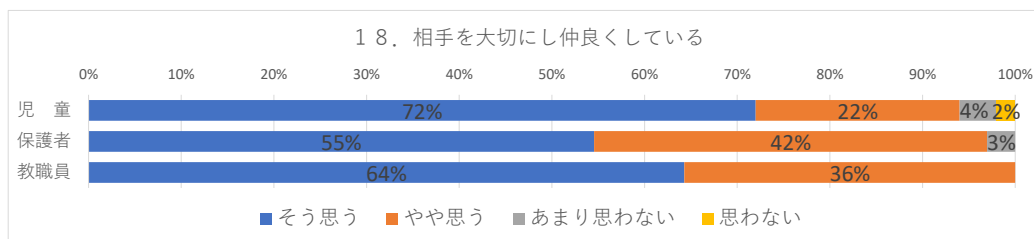


【改善策】「きちんとする」よさを、これからも具体的に根気強く指導していく。

感謝

質問 1 8

児童 いじめや差別、悪口、仲間はずしをせず、学年をこえて仲良くしている。
 保護者 家庭では、悪口や乱暴な言葉づかいを慎むと共に、「いじめをしてはいけない」と教えている。
 教職員 年間計画に基づいて、自分も他人も大切にすることを意識し行動力を育む人権教育に取り組んでいる。

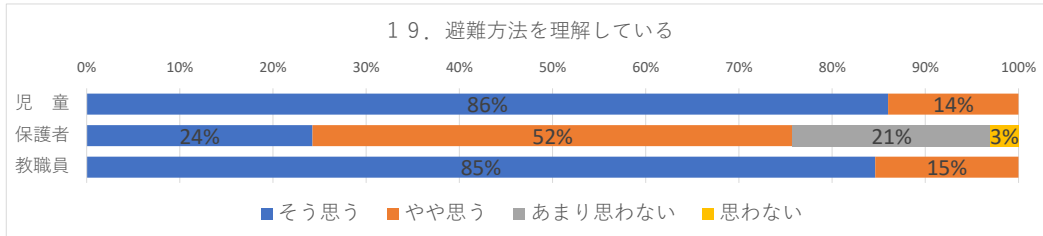


【改善策】人権教育は知識や技能を獲得することだけではない。日々の生活（家庭・学校・地域での生活）で、互いの人権を尊重する意識と実践力を、自らの実感を通して育む。

感謝

質問 19

児童 地震や火事・不審な人が現れた時、どのようにしたらよいか知っている。
 保護者 避難場所の確認など、防災に関する話を家族でしている。
 教職員 避難訓練、アラーム訓練、防災訓練を機会とし、知識と技能の更新に取り組んでいる。

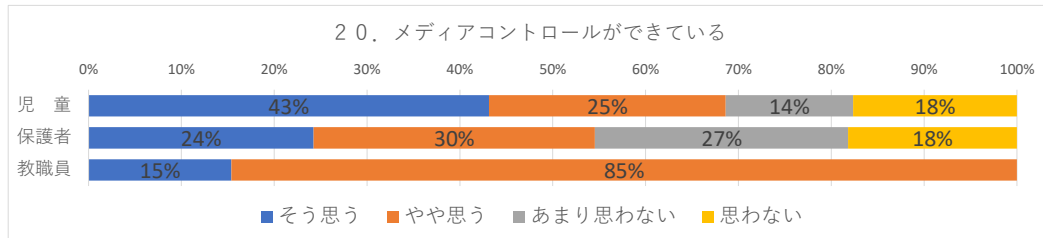


【改善点】これまでの防災・防犯教育が児童に生きた力として着実に身に付いてきている。今後は、知識・技能の更新と共に、避難後へも視野を広げ指導を進めていく。

感謝

質問 20

児童 ゲームやスマホを使う時間やノーメディアデーなどを決めて、行っている。
 保護者 ゲームや動画視聴のきまりやノーメディアデーを決め、子どものゲーム・スマホ依存予防に努めている。
 教職員 ゲーム・スマホ依存について理解し、家庭と連携してその予防を啓発している。

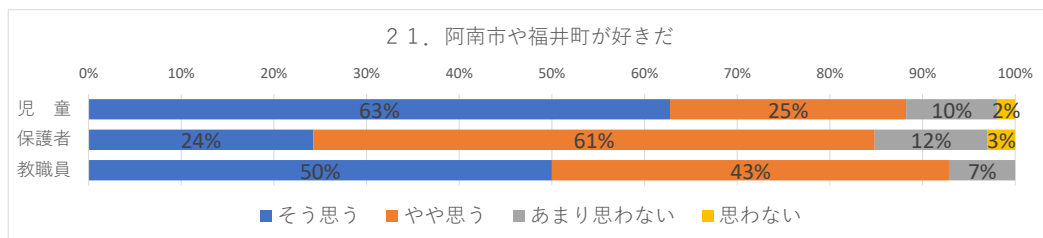


【改善策】将来的な展望からは、メディアコントロールの定着が好ましい。家庭にも情報を発信し、実践を支援していく。

感謝

質問 21

児童 自分の住んでいる町（阿南市や福井町など）が、好きだ。
 保護者 家庭では、市や福井町の行事などに、できるだけ参加している。
 教職員 地域の教育資源を活用した教育活動を通して、郷土を愛する気持ちを育てている。

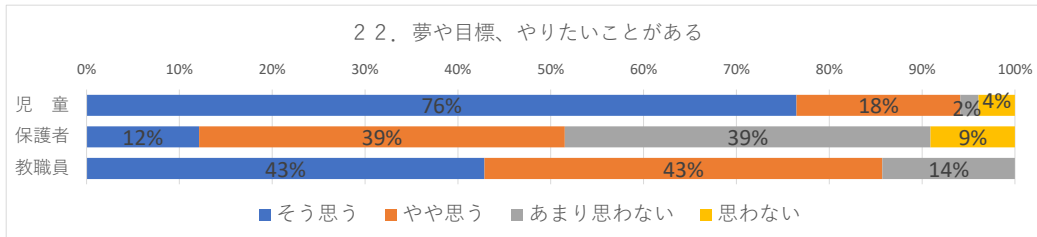


【改善策】教職員が、まず、それぞれの郷土愛をもって指導することを大切にする。そして、地域の「人・モノ・こと」をつなぐと共に、郷土で学ぶ機会を創造していく。

感謝

質問 2 2

児童 自分には、夢や目標、やりたいことがある。
 保護者 子どもは、将来の夢や目標をもって生活している。
 教職員 『社会に開かれた教育課程』の下、児童の社会的・職業的自立に向けて指導している。



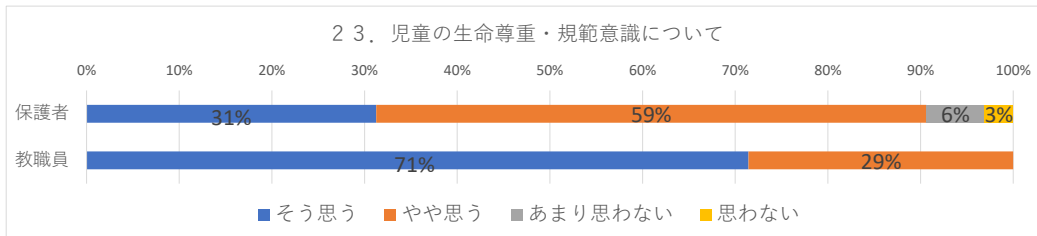
【改善策】教職員や保護者が自分が子どもの時に、どのような夢や目標をもち、そして、その実現に向けてどのように取り組んだのか、自分の経験を語るようにしていく。

学校の取組

楽しい学校

質問 2 3

保護者 学校は、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。
 教職員 児童の生命尊重及び規範意識を育んでいる。



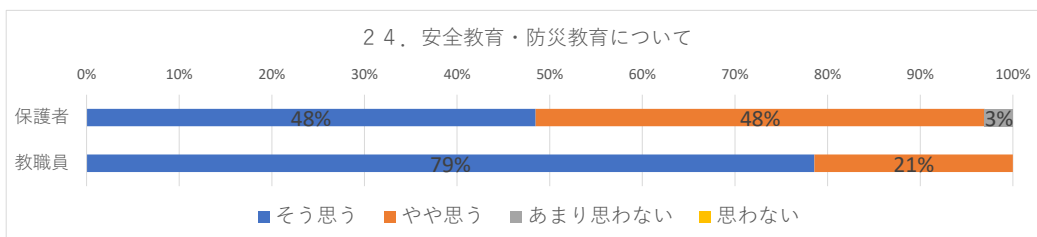
【改善策】教職員は、指導目標や内容を共有し、チームとして、正しいことは正しい、すべきことはすると指導する。

学校の取組

楽しい学校

質問 2 4

保護者 学校は、地震・津波・豪雨・火事・台風・不審者等への対応について、児童への指導や保護者への連絡ができています。
 教職員 危機管理意識をもって、安全教育・防災教育に取り組んでいる。



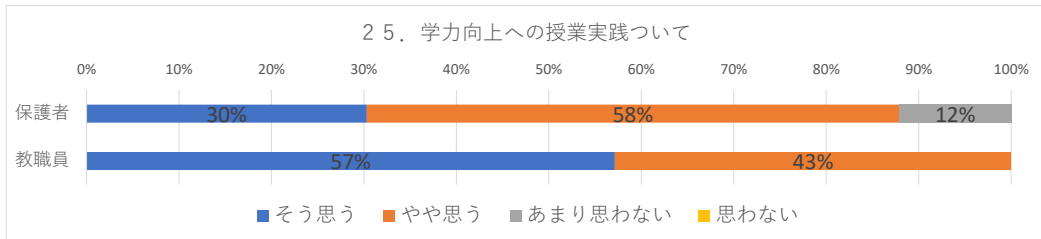
【改善策】教職員は、常に想定外を想定し、決めつけや慣習にとらわれることなく、研究の最先端を取り入れながら指導する。

学校の取組

伸びる学校

質問 2 5

保護者 学校での勉強はわかりやすく、児童に学力がついている。
 教職員 『授業が命』を信念とし、個の事実を把握してよくわかる授業の実践に努めている。



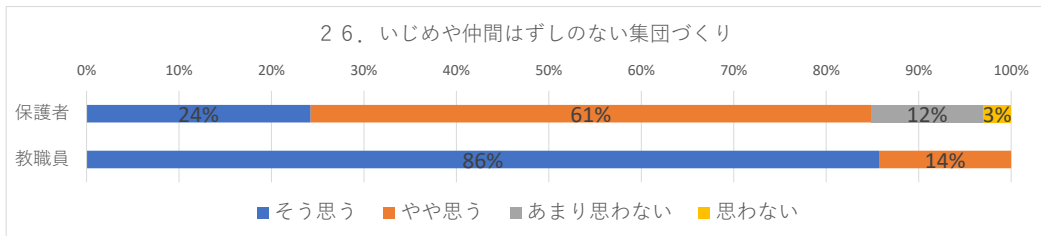
【改善策】教職員が「AARサイクル」を意識し、児童の困り感や苦手なところを把握し、小規模のよさを活かして指導する。

学校の取組

伸びる学校

質問 2 6

保護者 学校は、いじめや仲間はずしのない集団づくりに取り組んでいる。
 教職員 いじめや様々な問題行動の防止について、学校は組織として取り組んでいる。



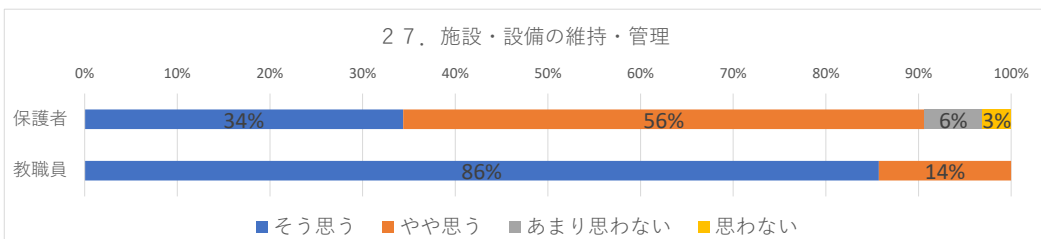
【改善策】衝突のない集団生活はない。衝突が生じた時こそ報告・連絡・相談を徹底し、その経験を成長の糧へと指導していく。同時に、保護者との情報共有をこまめに進めていく。

学校の取組

美しい学校

質問 2 7

保護者 学校は、安全・安心な施設・設備等の維持・管理に努めている。
 教職員 日直業務、毎月の施設設備点検を通して平時を把握し、異常に迅速に対応している。



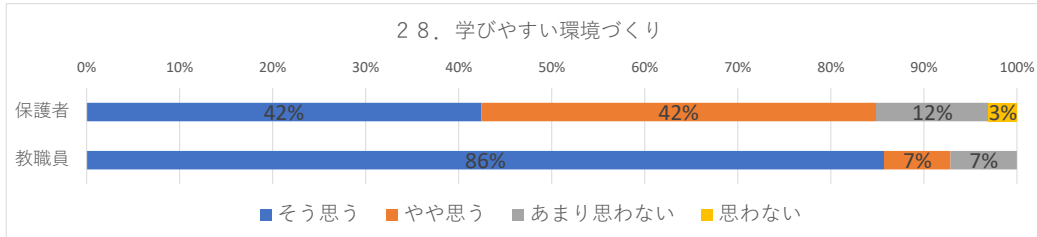
【改善策】「平時の把握」に尽きる。日直業務や施設設備点検が形骸化しないように、声出し・指さして点検し、「何か変だ」とキャッチする感性を高めていく。

学校の取組

美しい学校

質問 2 8

保護者 学校は、児童が学びやすい環境維持に努めている。
 教職員 衛生管理や美化推進に努め、学びやすい環境作りに取り組んでいる。



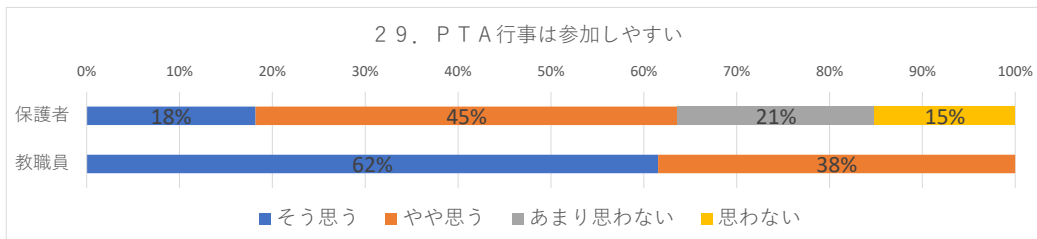
【改善策】教職員の意識の高さを維持していく。その取組の目的や内容、進捗状況等を発信すると共に、必要があれば保護者に協力を依頼する。

学校の取組

開かれた学校

質問 2 9

保護者 参観日やPTA行事は、日時等、参加しやすい。PTA活動は有意義だと感じる。
 教職員 保護者との意思疎通の機会を大切にし、成長支援への情報共有に努めている。



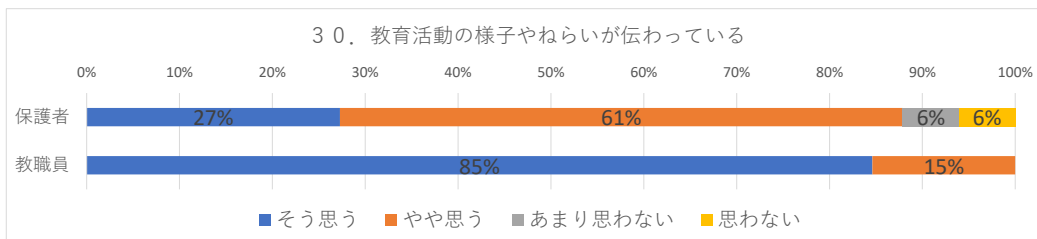
【改善策】児童数（家庭数）の減少に伴う学校の小規模化は、P T A 活動の在り方を問い直さざるを得ない。参観日や P T A 行事を保護者との意思疎通のよい機会とし、日頃から情報共有を心がけ、こまめに連絡・情報発信していく。

学校の取組

開かれた学校

質問 3 0

保護者 学校から保護者への事務連絡は適切である。また、学校・学年から教育活動の様子やねらいがわかりやすく伝えられている。
 教職員 通知や案内での、さらには各種たより、学校ホームページ、マチコミメールなどで、教育活動の様子やねらいを積極的に伝えている。



【改善策】教育活動の成果を児童の変容を通じて家庭に届けることが何よりの発信である。この時、I C T をさらに活用していく。